

5日目 (畑宿)―箱根―三島

11月28日(土) 6時に大森で京浜東北線に乗り、川崎で東海道線に乗り換えて小田原へ、小田原で箱根登山鉄道に乗り換えて箱根湯元へ、箱根湯元からバスで前回到達した畑宿へ。畑宿の一里塚を9時にスタート、天候は晴れ。

いつもお供のFMラジオ(USBメモリー)は山中にて受信が悪く、ミュージックプレーヤーに切り替え、最初はラフマニノフで元気を出す。

畑宿

畑宿から先は車道を歩くことなく旧街道の石畳道を登る。

石畳は平坦な石よりも丸い石や角のある石も多く、枯れ葉に埋まって頭を出している石の上を踏んでいく。

ところどころの急勾配には石段があり手摺につかまりながら口で息をして登り、時々休んで息を整える。

平行して車道があり、見えないものの絶え間なくエンジン音が聞こえる。急カーブで減速し、カーブを回った後でギアをシフトダウンしアクセルを踏みつけている動作が目につかぶ。

石畳道は木々の間で時には幅1m程になり、こんな道を昔の大名の駕籠はどうやって通り抜けたのだろうかと気になる。

土が流れて木の根が浮き出て通せんぼをしているところもあった。

枯葉を敷いた石畳の道



木の根が浮き出た道



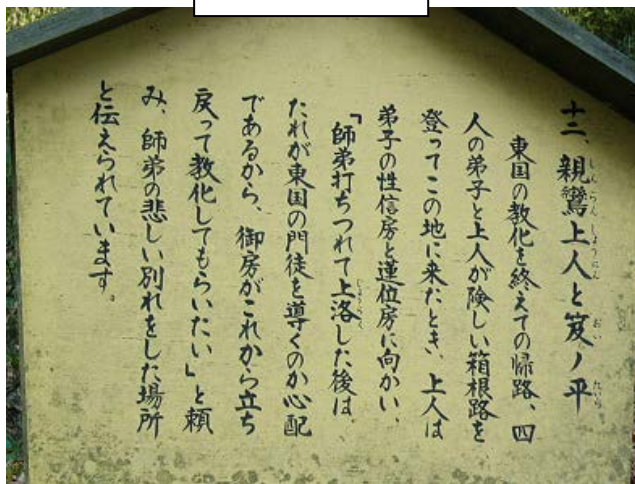
笈の平

「くるしくてどんぐりほどの涙こぼる」の碑がある櫃の木坂を越え、滑って転びそうな名前の猿滑り坂を越えて平坦なところ到着、ここが笈の平らで親鸞聖人の石碑がある。

近くには箱根旧道資料館があり、駕籠や蓑などの昔の旅行グッズと共に、忠臣蔵の神崎与五郎が言いがかりをつけられてあやまったその現場とのことで場面を再現した人形が飾られている。

そのすぐ先に昔からの茶屋の作りの甘酒茶屋があり、休憩して甘酒で一服、酒といってもアルコール分は0。

笈の平の説明



猿滑坂の石碑



甘酒茶屋は車道にも面しており、観光バスの客もいる。

神崎与五郎の人形

再スタートして歩き始めると、それまでは全く人影を見なかった旧街道を歩く人が増え、「こんにちは」と挨拶して行き違う。中にはバスガイドが引率している団体、殆どが中高年の女性、もあり、この近辺の短距離の箱根峠歩きは観光バスツアーのコースの一つに組み込まれているようである。さすがにハイヒールはいなかった。



峠越え

相変わらずの石畳道を登っていくと、行きかう人は減り、お玉坂、白水坂を越え、権現坂へ。「箱根八里は馬でも越すが越すに越されぬ大井川」の馬子唄の碑があり箱根の峠の頂点となる。

権現坂



箱根馬子唄の碑



右手の山に向けて展望台の標識があり、頂上での展望を期待して寄り道をしたが、小高い山の頂の回りには木が茂っていて何も展望できず。

下り坂となった道をたどると、前方の木の枝の間に水面が光って見え始め、やがて芦ノ湖に到着。

下りの坂道の向こうに芦ノ湖が光る



「天下の険」の碑



芦ノ湖

山から平地に下りたところに、「箱根の山は天下の険・・・」の歌と「天下の険」の碑がある。

山道から見える芦ノ湖には感激したが、箱根の旧街道を登ってきて頭が半分江戸時代にタイムスリップしている身には、芦ノ湖のスワンボートや海賊船は違和感を覚える。



富士山は雲がかかっていて見えず、有名な逆さ富士も見えない。今迄の山道と打って変わって街中となり、出来る限り街中を避けて湖畔の松並木の旧街道を歩くが、地面は平坦で歩き易い。湖畔に沢山ある資料館や記念館はパスして、M氏推奨の箱根関所跡を見学、通行料(見学科)は500円。関所内には昔の関所の風景が人形を使って再現されている。



往路ゴール



復路スタート

箱根駅伝

箱根といえばもう一つ頭に浮かぶのは正月の箱根駅伝、ガイドブックに載っていたその記念碑を探すのがなかなか見つからず、行きつ戻りつしてやっと見つける。

他の観光スポットはどこも観光客が多いのにこの碑の近くは誰もいない。

記念碑の表側には「箱根駅伝往路ゴール」と書かれており、裏側に回ると「箱根駅伝復路スタート」と書かれている。当たり前か。

湖畔を通り過ぎ、再び石畳道を登り始める。向坂の入り口に数体の石仏があり、石仏群と紹介されているのがおかしい。

石畳道の最後は長い急な石段があり、途中で2回程休憩して登り詰めたところが道路標識では箱根峠、一旦車道を歩き、最初に見付けたレストランで焼肉定食の昼食。

どんぶり飯を残さず平らげる。

30分程休憩して、旧街道に再チャレンジ。

下り坂

箱根峠の下りとなるが、箱根道の三島側は比較的整備され、標識も沢山あり、歩き易い。

豊臣秀吉が小田原攻めをするとき、この石の上に兜を置いて休んだといわれるかぶと石のある甲石坂を下り、昼なお暗い木立の中を歩いていくと、笹竹のトンネルが500m程続いているところがあり、風情があって良い雰囲気。

石原坂、大枯木坂、小枯木坂を下る。雲助徳利の墓もあり、お酒の大好きな雲助がいたらしい。

かぶと石



笹竹のトンネル



雲助徳利



山中城跡案内図

山中城

長い下り坂を下って、山中城跡へたどり着く。

この城は北條方の最前線の城で、北條方は簡単には落とせまいと期待していたが、秀吉の大軍の前に半日も持たなかったとのこと。山中城跡案内図を見ると結構大きな城であったことが分かる。



ボクを拾って

城の入り口に樹齢400年以上の大きな榎の木があり、そのそばに小犬の人形が「ボクを拾ってください」と書いた紙の上に置かれていた。 粋な仕業と感心。

更に坂を下っていくと三島の町と海が見え始めるが、下っても下っても近づかない。 登り道は視界が狭く、景色は次々と変わっていくが、下り道は視界が広く、距離感が異なる事を知る。三島の郊外についてもまだ下り道が続く。途中に赤い帽子をかぶった可愛らしい地蔵があり、六地蔵との標識があるものの地蔵の数が多く20体程。

ボクを拾って



赤い帽子の地蔵達



ようやく三島市内にはいり、最初は旧東海道の並木道に沿って歩いていたが、道路工事をしていて地図どおりに歩けず道に迷い、旧道ではなく新道の車道を歩いてしまい、2Km程回り道をして三島駅についたのは4時。 本日の歩数は4.4万歩で、距離は約30Km。

足裏に違和感があり、帰って靴を脱いでみたら靴下の足裏部分に両足とも穴が開いていた。 厚めの靴下をはいていたのに、こんなことは初めて。

更に翌日は両腿の張りや腰の鈍痛を感じた、これも初めて。

さすが箱根、天下の険恐るべし!

次回は三島—沼津—原—吉原を計画しているが、年末と寒い間は避け、温かくなってから再スタートを予定。

5日目

